

読書の秋、ミステリー小説を読もう ～ 衝撃の結末・どんでん返し特集 ～



「殺人鬼がもう一人」
若竹 七海 / 著



「奈落で踊れ」
月村 了衛 / 著



「いけない ～ do not ～」
道尾 秀介 / 著

20年ほど前の連続殺人事件以来、事件らしい事件もないのかな町・辛夷ヶ丘に、次々起こる大事件。悪徳(?)警察官の砂井三琴は今日も大忙しで…。連作ミステリー。
著者の若竹七海氏は、1963年東京都生まれ。立教大学文学部史学科卒。「ぼくのみステリーな日常」でデビュー。「暗い越流」で第66回日本推理作家協会賞(短編部門)を受賞。他の著書に「さよならの手口」など。

ノーパンすき焼きスキャンダルが発覚し、大蔵省に危機が訪れる。大物主計局長、暴力団幹部、総会屋総帥、政治家らの思惑が入り乱れるなか、霞が関のダークヒーロー・香良洲圭一が現れ…。
驚愕のラスト、香良洲の決断とは？
著者の月村了衛氏は、1963年生まれ。早稲田大学第一文学部卒。「コルトM1851残月」で大藪春彦賞、「土漠の花」で日本推理作家協会賞、「欺す衆生」で山田風太郎賞を受賞。

友達のいない少年が目撃した殺人現場は本物か？偽物か？各章の最終ページを捲ると現れる地図や写真の意味が解った瞬間、物語の別の顔が見えてくる…。驚愕ミステリー。
著者の道尾秀介氏は1975年生まれ。「背の眼」でホラーサスペンス大賞特別賞を受賞しデビュー。「光媒の花」で山本周五郎賞、「月と蟹」で直木賞を受賞。

その他の本

- ◆ 「笑え、シャイロック」
なかやま 七里 / 著
- ◆ 「凶犬の眼」
ゆづき 裕子 / 著
- ◆ 「神様の裏の顔 ～ The two-faced God ～」
ふじさき 翔 / 著
- ◆ 「ゴーン・ガール 上・下」
ギリアン・フリン / 著
なかたに 友紀子 / 訳
- ◆ 「特捜部Q 4～カルテ番号64～」
ユッシ・エズラ・オールスン / 著
- ◆ 「その女アレックス」
ピエール・ルメートル / 著
たちばな あけみ / 訳
- ◆ 「追撃の森」
ジェフリー・ディーヴァー / 著
つちや のぼる / 訳

11月の催しもの

◆ 展示会
ボランティアグループ
アイリスによる
タペストリー作品展示会
11月7日(土)～
11月22日(日)
2階ギャラリー

俳句

「黄落」
黄落やいつ止めやうか白髪染め
松茸の香りがぎつゝしめじ買ふ
山寺のしじまを母と落葉踏む

ふそう俳句会
伊藤美保子
上杉 椿
近藤 喜山

川柳

扶桑川柳クラブ
インフルとコロナ揃いのマスク除け
横文字について行けない戦中派
不揃いが新鮮詰めてよく売れる

扶桑川柳クラブ
大西 陽子
高木 節子
高野瀬徳子

短歌

「水面」
川の辺に釣糸垂らす釣り人も
見て立つ人も水面見てをり
秋の田の穂青々芽吹きおり
生命の限り我も芽吹かん
日を追える畑のあまたの向日葵
花芯に想う目のごとき群

ふそう短歌会
和田 悦子
中山 幸代
中山 哲也

詩吟

「秋風の引」
何れの処よりか秋風来る
蕭々として雁群を送る
朝来庭樹に入り
孤客最も先に聞く

劉 禹錫

「意」
「意」 いったいどこからこの秋風は吹きよせてくるのだ。物淋しく遠くかなたより雁の群れを送ってくる。今朝吾が庭に吹き入り、その淋しい音色を孤独な私が誰よりも先に聞いたのだ。

正風流二代目家元 山内 正風